

大分県グローバル人材育成推進プラン 第3ステージ (令和3～6年度)

「5つの力の総合力」によるグローバル人材の育成

①挑戦意欲と
責任感・使命感

②多様性を受け入れ
協働する力

③大分県や日本への
深い理解

④知識・教養に基づき
論理的に考え伝える力

⑤英語力 (語学力)

経緯

※平成26年、グローバル社会を生きる大分の子どもたちが、世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働して未来を切り拓いていく上で必要な5つの資質・能力を定義し、「大分県グローバル人材育成推進プラン 第1ステージ(平成27～29年度)」を策定
 ※平成30年、第1ステージの成果・課題に基づき、「大分県グローバル人材育成推進プラン 第2ステージ(平成30～令和2年度)」を策定

第2ステージの取組

(1) 小中高一貫したグローバル人材育成推進モデルの構築

◎**イングリッシュ・デイ・キャンプ**
 【概要】郷土の魅力をALTに発信
 【実績】小中学生243名が参加

step up

◎**グローバルリーダー育成塾**
 【概要】世界の課題解決策を議論
 【実績】高校生712名が修了

step up

◎**オンライン・グローバル・キャンパス**
 【概要】バーチャル留学を体験
 【実績】高校生22名が修了 (R2)

◎**スタンフォード大学遠隔講座**
 【概要】シリコンバレーの起業家等と交流
 【実績】高校生60名が修了 (R1-2)

(2) 県下へのグローバル人材育成推進モデルの普及

◎**オンライン・スピーキング・レッスン**
 【概要】ALTと“1対1”で英会話
 【実績】22校の高校生が受講 (R1)

◎**国際交流プラットフォーム**
 【概要】国内外の教育機関等と交流
 【実績】25校の高校生が参加

◎**国際的教育プログラムの研究**
 【概要】教材・授業研究等を実施
 【実績】教員4名が参加 (R1-2)

(3) 海外留学の促進

◎**留学フェア・留学支援金**
 【実績1】留学フェアに中高生614名が参加
 【実績2】留学支援金を高校生46名が活用

第2ステージの成果

「大分県長期教育計画」指標の伸長

- 国際的に活躍する資質能力を持つ生徒 : 48.1% (H29) → 54.9% (R2)
- 外国人とコミュニケーションを図った生徒 : 22.4% (H29) → 57.0% (R2)

第2ステージの課題

「5つの力の総合力」①⑤に係る指標の停滞

- 留学や海外との仕事に興味を持つ生徒 : 30.5% (H29) → 31.9% (R2)
- 英語で積極的にコミュニケーションを図る生徒 : 24.9% (H29) → 27.2% (R2)

第3ステージの基本方針

A 第2ステージの継続と充実

- 世界的な“ヒト、モノ、カネ”の流れの停滞
- ICT環境の整備(児童生徒の1人1台端末等)
- **日本に居ながらにしてリアル・バーチャル問わず世界とつながる機会の拡大**

第3ステージの重点ポイント

B 挑戦意欲等を喚起する取組の拡大

- ◎**グローバル・ラーニング・ハイスクール(新)**
 【概要】育成塾モデルの年間プログラムを学校で体験
 (1)講演 (2)留学生と協議 (3)育成塾で発表
 【対象】高校5校 ※代表グループ

C 小中高を通じた英語4技能の強化

- ◎**英語4技能テスト(新)**
 【概要】データに基づき授業改善PDCAを確立
 (1)テスト (2)結果分析 (3)研修 (4)授業実践
 【対象】小学校18校・中学校18校・高校39校

目標 (令和6年度) …… 『国際的に活躍する資質能力を持つ生徒』: 60% 『外国人とコミュニケーションを図った生徒』: 50%

大分県グローバル人材育成推進プラン

～ 第3ステージ ～

令和3年4月

大分県教育委員会

目 次

I	第3ステージ策定の経緯	1
II	第2ステージの取組	3
	1 挑戦意欲と責任感・使命感の育成	
	2 多様性を受け入れ協働する力の育成	
	3 大分県や日本への深い理解の促進	
	4 知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力の育成	
	5 英語力（語学力）の育成	
III	第2ステージの分析・検証	20
IV	第3ステージの方向性	22
	1 挑戦意欲等を喚起する取組の拡大	
	2 多様な価値観に触れることができる環境の創出	
	3 伝統や文化に関する教育の充実	
	4 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の推進	
	5 小中高を通じた英語4技能の強化	
V	第3ステージの目標指標	25

※参考 第3ステージ概要

I 第3ステージ策定の経緯

平成26年度 大分県グローバル人材育成推進プランの策定

県教育委員会では、平成26年5月に「大分県グローバル人材育成推進会議」を設置し、本県におけるグローバル人材の資質・能力の定義について審議。この会議での意見やアンケート結果等を踏まえ、同年10月、「大分県グローバル人材育成推進プラン」を策定。これからのグローバル社会を生きる本県の子どもたちが、世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働しながら未来を切り拓く上で、以下の「5つの力の総合力」が必要であるとした。

大分県が目指すグローバル人材の資質・能力

- 1 挑戦意欲と責任感・使命感
- 2 多様性を受け入れ協働する力
- 3 大分県や日本への深い理解
- 4 知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力
- 5 英語力（語学力）

平成27年度～平成29年度 プラン第1ステージの実践（3年間）

第1ステージでは、「5つの力の総合力」を育成するための、平成27年度から平成29年度までの3年間で取り組むべき施策を定めた。従来の国際理解教育に加え、グローバルリーダーの育成や留学支援、英語力向上の取組等を総括的に推進。「留学フェア」や「グローバルリーダー育成塾」など新たな取組を開始。

平成30年度～令和2年度 プラン第2ステージの実践（3年間）

第2ステージでは、基本方針を「『5つの力の総合力』育成の継続と充実」とし、第1ステージの成果と課題を踏まえつつ、平成30年度から令和2年度までの3年間で取り組むべき施策を定めた。特に国際的視野の涵養や継続的な国際交流の充実、英語発信力の強化を図り、「スタンフォード大学遠隔講座」や「オンライン・スピーキング・レッスン」など新たな取組を開始。

I 第3ステージ策定の経緯

令和 3年度～令和 6年度 プラン第3ステージの策定（4年間）

第3ステージでは、第2ステージの成果と課題を分析・検証し、国内外の情勢を踏まえた上で、今後の基本方針と重点ポイントを決定。

第2ステージで取り組んだ；

- (1) 小中高一貫したグローバル人材育成推進モデルの構築
- (2) 県下へのグローバル人材育成推進モデルの普及
- (3) 海外留学の促進

を拡充するとともに、令和3年度から令和6年度（「大分県長期教育計画」の最終年度と同一）までの4年間で新たに取り組むべき施策を定める。

<<国内外の情勢>>

- ・ グローバル化の進展
 - ※新型コロナウイルス感染症に伴う一時的なヒト、モノ、カネの流れの停滞
- ・ 急速な技術革新（Society 5.0の到来）
- ・ 学びのSTEAM化
- ・ 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた世界的な取組の推進
- ・ 新学習指導要領の実施と高大接続改革 等

グローバルリーダー育成塾

【経緯】 第1期：平成28年度～ 第5期：令和2年度

【目的】 世界に挑戦する気概を持つ人材の育成

【主催】 大分県教育委員会

【対象】 県内の高校1、2年生300名程度（希望者）

【日程】 5月～12月（年4回）

【場所】 大分県教育センター

【内容】

- ・各回の構成は ①世界で活躍する講師による基調講演 ②留学生等を交えた協議・発表
- ・第1回の開講式以降「世界の課題解決に向けて私ができること」をテーマに参加者間で協議
- ・最終回の「高校生サミット」において、国連／大学関係者・起業家等に「グローバルリーダー育成塾生としての私の提言」を発表
- ・第1回または最終回において、広瀬勝貞大分県知事が講評



【実績1】 3年間で10名の講師が登場

[講師一覧]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
第1回	NPO法人 very50 代表理事・菅谷亮介氏	(株)マザーハウス 代表取締役・山口絵理子氏	慶應義塾大学/ヤフー(株) 教授/CSO・安宅和人氏
第2回	(株)GiFT partners 代表取締役・鈴木大樹氏	NPO法人 e-Education 代表理事・三輪開人氏	慶應義塾大学 准教授・琴坂将広氏
第3回	九州大学、LINE 福岡(株)、 住友商事九州(株) ※福岡研修	(株)ユーイングリッシュ 代表取締役・中山裕木子氏	(株)BIOTOPE 代表取締役・佐宗邦威氏
第4回	立命館アジア太平洋大学 准教授・Dahlan Nariman氏	国連人間居住計画 福岡本部長・是澤優氏	—

【実績2】 3年間で712名の生徒が修了

[人数]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
第1回	313名 (23校)	311名 (25校)	450名 (28校)	
第2回	312名 (23校)	270名 (24校)	446名 (30校)	
第3回	52名 (16校)	210名 (24校)	350名 (26校)	
第4回	254名 (21校)	192名 (20校)	—	
参加者	931名	983名	1,246名	3,160名
修了者	194名	168名	350名	712名

※修了者=全4回中3回（令和2年度は全3回中2回）以上参加した生徒

グローバルリーダー育成塾

【実績3】3年間で延べ152名の留学生等が参加

[人数]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
留学生等 参加者	62名 (19か国・地域)	90名 (24か国・地域)	0名	152名



【実績4】リアルとバーチャルを融合した新しいスタイルのグローバルリーダー育成塾を提示

・令和2年度のグローバルリーダー育成塾は“With コロナ”時代を見据え、以下の方法で実施：

第1回 対面と遠隔を組み合わせたハイブリッド方式（9月）

第2回 対面と遠隔を組み合わせたハイブリッド方式（11月）

第3回 遠隔のみのオール・オンライン方式（12月）

・遠隔参加者は、1人1台端末を活用し、約50のバーチャル会議室上で協議・発表

・全体発表会では、遠隔参加者と対面参加者が相互の発表を視聴し、距離を超えて意見交換



【実績5】参加者の平均満足度95%以上

[感想]

- ・基調講演はとても心に響いた。自分も理念を貫き、現場で行動していきたい。
- ・世界の問題をこんなに深く考えたことはなかった。もっと世界のことを知りたい。
- ・これまで自分の中になかった考え方に触れ、視野が広がり、意識が変わった。
- ・一つの問題に様々な解決策があることを知った。もっと自分を高め世界に貢献したい。
- ・自分の英語力に不安があったが、難しい内容を英語で協議することで自信になった。等

スタンフォード大学遠隔講座 “Stanford e-Oita”

- 【経 緯】 第1期：令和元年度 ～ 第2期：令和2年度
 【目 的】 英語で世界と渡り合える人材の育成
 【主 催】 大分県教育委員会・スタンフォード大学
 【対 象】 県内の高校1、2年生30名程度（希望者）
 【日 程】 9月～3月（年10回：土曜日の10時～11時半）
 【場 所】 受講生の自宅または在籍校（オンライン参加）
 【内 容】



- ・大分県教育委員会とスタンフォード大学が共同で提供する双方向型オンラインプログラム
- ・各回の構成は ①スタンフォード大学から配信される動画の視聴及び文献の閲読 ②スタンフォード大学専任講師と各回ゲストスピーカー（現地起業家）による講義 ③オンライン掲示板上でディスカッション
- ・第10回講座終了後、受講生は「社会の課題解決に向けて私ができること（SDGsを参考に各受講生が設定）」をテーマに1人5分程度でプレゼンテーション
- ・課題レポート、ディスカッションへの貢献度、最終プレゼンテーションを基に、スタンフォード大学が成績優秀者2名を決定
- ・成績優秀者2名はスタンフォード大学で行われる表彰式に出席（第1期は新型コロナウイルス感染症の影響により、バーチャル表彰式に変更）
- ・グローバルリーダー育成塾において、開講式・閉講式（成果発表）を実施

【実績1】2年間で延べ20名の講師が登場

[講師一覧]

	令和元年度	令和2年度
第1回	Stanford University・SPICE Director Gary Mukai 氏「日系移民の歴史」	Stanford University・SPICE Instructor Kasumi Yamashita 氏「発表の技術」
第2回	Wing Luke Museum・Designer Michelle Kumata 氏「芸術と文化」	Stanford University・SPICE Instructor Kasumi Yamashita 氏「議論の技術」
第3回	Stanford University・SPICE Instructor Kasumi Yamashita 氏「発表の技術」	Purple Gate Design・Artist Erin Shigaki 氏「芸術と政治」
第4回	Panama Hotel・Owner Jan Johnson 氏「観光と地域活性化」	Panama Hotel・Owner Jan Johnson 氏「日系移民の歴史」
第5回	Boundless Immigration・CED Xiao Wang 氏「移民と人権」	Stanford University・SPICE Instructor Kasumi Yamashita 氏「アイデンティティと表現」
第6回	Mukai Farm & Garden・Owner Glenda Pearson 氏「農業と食文化」	Smilee Entertainment・CEO Sumire Hirotsuru 氏「起業家精神」

スタンフォード大学遠隔講座 “Stanford e-Oita”

第7回	Stanford University・SPICE Instructor Kasumi Yamashita 氏「議論の技術」	Smithsonian Institution・Director Franklin Odo 氏「移民と人権」
第8回	Blue Canoe Learning・CEO Sarah Daniels 氏「教育とジェンダー」	Stanford University・SPICE Instructor Kasumi Yamashita 氏「SDGs と社会Ⅰ」
第9回	Seattle Children's Hospital・Engineer Jonathan Poli 氏「環境と健康」	Stanford University・SPICE Instructor Kasumi Yamashita 氏「SDGs と社会Ⅱ」
第10回	Stanford University・SPICE Instructor Kasumi Yamashita 氏「最終プレゼンテーション」	Stanford University・SPICE Instructor Kasumi Yamashita 氏「最終プレゼンテーション」

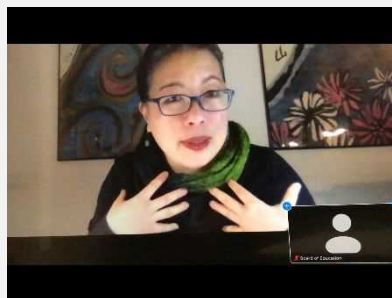


【実績2】2年間で60名の生徒が修了

[人数]

	令和元年度	令和2年度
修了者	30名 (15校)	30名 (19校)

※修了者=大分県教育委員会・スタンフォード大学が定める基準を満たした生徒



【実績3】高い学習効果

[感想]

- 独創的なアイデアと最先端のテクノロジー、そして自分の弱点を補う多様性溢れるチームが、世界の課題を解決し、多くの人々を助ける鍵になると感じた。
- 何かに問題を感じ、それを変えたいと思ったら、様々なリスクを背負ってでも行動することの大切さを学んだ。自分も現状維持よりも変化を選び、挑戦を続けていきたい。
- 起業家は皆信念を持っている。自分にとっての「譲れない何か」を見つけたい。等

オンライン・グローバル・キャンパス

【経緯】第1期：令和2年度

【目的】バーチャル留学を体験する機会の提供

【主催】大分県教育委員会・立命館アジア太平洋大学

【対象】県内の高校1、2年生30名程度（希望者）

【日程】10月～3月

（年10回：土曜日の10時～11時半）

【場所】受講生の自宅または在籍校（オンライン参加）

【内容】

- ・大分県教育委員会と立命館アジア太平洋大学が共同で提供する双方向型オンラインプログラム
- ・各回の構成は ①立命館アジア太平洋大学教員による講義 ②留学生を交えた協議・発表 ③各講義後に課される課題レポート（留学生による添削指導付）
- ・第10回講座において、受講生は「社会の課題解決に向けて私ができること（SDGsを参考に各受講生が設定）」をテーマに1人5分程度でプレゼンテーション
- ・課題レポート、ディスカッションへの貢献度、最終プレゼンテーションを基に、立命館アジア太平洋大学が成績優秀者2名を決定
- ・成績優秀者2名は立命館アジア太平洋大学で行われる「起業部」との交流会に出席（第1期は新型コロナウイルス感染症の影響により、バーチャル交流会に変更）
- ・グローバルリーダー育成塾において、開講式・閉講式（成果発表）を実施



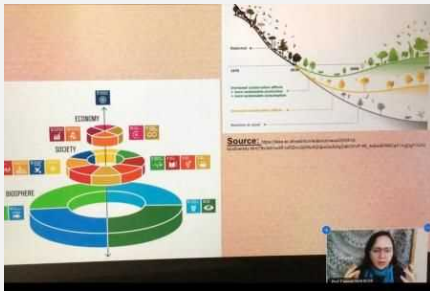
【実績1】1年間で延べ10名の講師が登場

【講師一覧】

令和2年度	
第1回	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 准教授・YOUN Seung Ho氏「プログラム・イントロダクション」（※留学生5名参加）
第2回	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 准教授・VYAS Utpal氏「国際社会とグローバル・ガバナンス」（※留学生5名参加）
第3回	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 教授・PROGLER Joseph氏「社会文化とメディアⅠ」（※留学生5名参加）
第4回	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 准教授・MAHICHI Faezeh氏「環境と開発Ⅰ」（※留学生6名参加）
第5回	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 教授・須藤智徳氏「環境と開発Ⅱ」（※留学生5名参加）
第6回	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 助教・平野実晴氏「COVID-19と国際法」（※留学生6名参加）

オンライン・グローバル・キャンパス

第7回	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 教授・井口由布 氏「社会文化とメディアⅡ」 (※留学生5名参加)
第8回	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 客員教授・COOPER Malcolm 氏「ツーリズムⅠ」 (※留学生5名参加)
第9回	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 教授・VAFADARI Kazem 氏「ツーリズムⅡ」 (※留学生5名参加)
第10回	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 准教授・YOUN Seung Ho 氏「最終プレゼンテーション」 (※留学生5名参加)

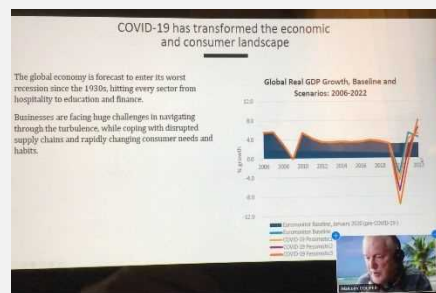


【実績2】 1年間で22名の生徒が修了

[人数]

	令和2年度
修了者	22名 (12校)

※修了者＝大分県教育委員会・立命館アジア太平洋大学が定める基準を満たした生徒



【実績3】 高い学習効果

[感想]

- ・ディスカッションが多く、海外の学校にいるようだった。留学生の積極性に驚いたが、様々な意見を聞いて、自分にはない気づきを得たり、考えを深めたりすることができた。
- ・学校の枠を超えた活動、しかも90分英語だけが飛び交う時間は経験したことがなく、とても緊張したが、自分の意見が伝わった時の喜びが忘れられない。
- ・自分が住む地域の文化や歴史など、外国人に説明できるよう、更に知識を増やしたい。等

留学フェア

【経 緯】平成27年度～令和2年度（6年目）

【目 的】留学意欲の喚起と留学情報の提供

【主 催】大分県教育委員会

【対 象】県内の中高生等100名程度（希望者）

【日 程】5月・10月（年2回）

【場 所】大分県教育センター等

【内 容】

各回の構成は ①世界で活躍する講師による基調講演 ②留学経験者による体験発表 ③海外大学卒業生等との意見交換会 ④在日領事館や留学支援団体による個別相談会



【実績1】3年間で6名の講師が登場

[講師一覧]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
第1回	在福岡アメリカ領事館 領事・Vanessa Zenji 氏	海外就職相談室 代表・芳賀朝子 氏	翻訳家/杏林大学 准教授・関美和 氏
第2回	(株)留学ジャーナル 副社長・加藤ゆかり 氏	NPO 法人 e-Education 代表理事・三輪開人 氏	在福岡アメリカ領事館 広報部・カグノ麻衣子 氏

【実績2】3年間で延べ614名の生徒・教員・保護者等が参加

[人 数]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
第1回	119名 (21校)	109名 (23校)	109名 (24校)	
第2回	149名 (22校)	128名 (27校)	—	
参加者	268名	237名	109名	614名

【実績3】3年間で延べ66名の留学生等が参加

[人 数]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
留学生等 参加者	30名 (7か国・地域)	36名 (18か国・地域)	0名	66名



留学フェア

【実績4】 3年間で県内の高校生46名が留学支援金を活用 [人 数]

	支援金額・枠	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
長期留学	30万円×5名	1名	2名	0名	3名
個人短期留学	10万円×20名	16名	17名	0名	33名
団体短期留学	10万円×20名	10名	0名	0名	10名
留学者		27名	19名	0名	46名

※長期留学＝3か月以上

※短期留学＝2週間以上3か月未満

※主な留学先（長期）：フランス/1名、ドイツ/1名、イタリア/1名

※主な留学先（短期）：アメリカ/15名、カナダ/12名、イギリス/9名、台湾/2名、
ニュージーランド/2名、フィリピン/1名、マレーシア/1名、
オーストラリア/1名

【実績5】 3年間で県内の県立高校生73名が海外留学 [人 数]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
長期留学	6名	7名	0名	13名
短期留学	33名	27名	0名	60名
留学者	39名	34名	0名	73名

※令和2年3月卒業者の海外大学等進学者は2名（県立高校）



【実績6】 参加者の平均満足度95%以上 [感 想]

- ・これまで、留学したいという漠然とした考えしかなかったが、留学の価値や事前にやるべきことが分かり、より具体的な可能性を検討できるようになった。
- ・留学することで、語学力だけでなく、世界で活躍できる人材になるための、リーダーシップや積極性、そして多くの価値観に触れながら課題を解決できる力なども身につけたい。
- ・留学するかどうか迷っていたが、海外にチャレンジしたい気持ちが高まった。等

イングリッシュ・デイ・キャンプ

- 【経 緯】平成30年度 ～ 令和2年度（3年目）
- 【目 的】多様な価値観を持った者と協働できる人材の育成
- 【主 催】大分県教育委員会
- 【対 象】県内の小学5、6年生50名程度（希望者）
 県内の中学1、2年生50名程度（希望者）
 ※令和2年度は中学生のみ（2月実施）
- 【日 程】7・8月（小学生対象1回・中学生対象1回）
- 【場 所】大分県教育センター等
- 【内 容】



各回の構成は ①ALTとの英語を使ったコミュニケーション活動 ②「大分県の魅力を世界に発信」や「SDGsの達成に向けて私ができること」等をテーマとした英語プレゼンテーション

【実績1】3年間で延べ243名の児童生徒が参加 [人 数]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
小学生	29名（14校）	104名（46校）	—	133名
中学生	44名（17校）	48名（25校）	18名（12校）	110名
参加者	73名	152名	18名	243名



【実績2】3年間で延べ99名のALTが参加 [人 数]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
A L T	34名	57名	8名	99名
参加者	(3か国)	(2か国)	(2か国)	



イングリッシュ・デイ・キャンプ

【実績3】令和2年度は海外に滞在する来日予定ALT 5名がオンラインで参加

- ・生徒が大分県在住のALTと共に、1人1台端末を活用してプレゼンテーション「大分の魅力を世界に発信」を作成
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により来日が延期となり、海外に滞在するALT 5名に対しオンラインにより発表



【実績4】高い学習効果

[感想]

- ・自分の地元への理解をもっと深めたいと思ったし、それを全く知らない人に魅力を感じてもらえるような説明ができるようになりたいと思った。
- ・どう表現していいか、言いたいことは浮かんでいるのにうまく伝えられなかったという反省点が見つかったので、普段の授業の質を自分から上げていきたい。等

《英語を使うことに対する達成度（参加者平均、10点満点）》 ※令和2年度

英語を使うことができた	6. 4点
英語を聞くことができた	7. 6点
英語で話すことができた	6. 3点

国際交流プラットフォーム

【概要】

生徒の国際交流機会を確保するため、県立高校に以下メニューを提供：

(1) 訪日教育旅行団等の受入

県内高校が海外からの訪日教育旅行団等の教員・生徒を受け入れ、授業・部活動体験、文化交流、意見交換会等を実施

(2) Web会議の開催

県内高校と海外高校をオンラインで接続し、相互の学校・郷土紹介やSDGsに関する意見交換会等を実施

(3) 国際交流サポーターの派遣

A L Tや県内大学に所属する海外留学生等を国際交流サポーターとして県内高校や県主催行事等に派遣

【実績1】3年間で県立高校21校が8か国・地域から28校585名の教員・生徒を受入

[人 数]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
訪日教育 旅行団等	339名 (14校)	246名 (14校)	0名 (0校)	585名 (28校)

※主な国・地域：台湾/14校、韓国/5校、オーストラリア/3校、タイ/3校、
ニュージーランド/1校、アメリカ/1校、東ティモール/1校

※ラグビーワールドカップの日本開催に伴う、以下海外高校等との交流を含む：

- ・令和元年10月 シドニー・グラマースクール（オーストラリア）
- ・令和元年10月 ニューイントン・カレッジ（オーストラリア）

【実績2】3年間で県立高校8校が4か国・地域の海外高校8校とWeb会議を実施 [校 数]

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
海外高校	7校	1校	0校	8校

※主な国・地域：台湾/5校、韓国/1校、シンガポール/1校、オーストラリア/1校

※海外高校とのWeb会議に加えて、ラグビーワールドカップの日本開催に伴う、外国人トップ
リーガーとの遠隔交流を実施：

- ・平成30年10月 キャノンイーグルス（南アフリカ出身選手） ※私立高校
- ・平成30年11月 クボタスピアーズ（フィジー出身選手）
- ・平成30年11月 NECグリーンロケッツ（ニュージーランド出身選手）
- ・平成30年11月 豊田自動織機シャトルズ（ニュージーランド・フィジー出身選手）
- ・平成30年11月 キャノンイーグルス（南アフリカ出身選手） ※私立高校

国際交流プラットフォーム

※海外高校とのWeb会議に加えて、在福岡米国領事館・宮崎大学と連携した遠隔講座を実施：

- ・令和2年 7月 「Launch America ～ NASA 新時代の挑戦」
NASA アジア代表部代表 Garvey McIntosh 氏
- ・令和2年10月 「赤い州・青い州、二大政党制及び2020年アメリカ大統領選挙に関して」
元駐日アメリカ大使館広報公使 Mark J. Davidson 氏

【実績3】3年間で延べ12の事業に国際交流サポーターを派遣

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
派遣事業	グローバルリーダー育成塾	グローバルリーダー育成塾	オンライン・グローバル・キャンパス
	留学フェア	留学フェア	—
	イングリッシュ・デイ・キャンプ	イングリッシュ・デイ・キャンプ	イングリッシュ・デイ・キャンプ
	高校における国際交流	高校における国際交流	高校における国際交流
	—	オンライン・スピーキング・レッスン	—

<<参考1：姉妹校等締結校（県立高校）>>

学校名	海外姉妹校等	国・地域
別府翔青高校	ウェスタンハイツ・ハイスクール	ニュージーランド
大分舞鶴高校	ロップリー科学高校	タイ
大分舞鶴高校	ラグビー校	イギリス
大分商業高校	木浦女子商業高校	韓国
由布高校	嶺西高校	韓国
由布高校	小港高級中学校	台湾

<<参考2：海外修学旅行実施校数（県立高校）>>

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
実施高校	5校	6校	0校	11校

※主な旅行先：シンガポール、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、カナダ

<<参考3：海外研修実施校数（県立高校）>>

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
実施高校	8校	13校	0校	21校

※主な研修先：台湾、アメリカ、ベトナム、マレーシア、タイ、カナダ、デンマーク、オーストラリア、ニュージーランド

国際的教育プログラムの研究

【概要】

- (1) AI、IoT、ビッグデータなど、世界の先端技術に挑戦できる人材（＝英語で先端技術を語ることができる人材）の育成に向けた国際的教育プログラムの研究
- (2) 特に国際バカロレアを研究の対象とし、数学を英語で教えることができる教員の育成を開始

※国際バカロレア

- ・本部をジュネーブに置く国際バカロレア機構が開発した国際的教育プログラム（設置：1968年）
- ・カリキュラムを履修し、最終試験に合格すると、国際的に認められる大学入学資格の取得が可能（国内外1800以上の大学入学資格に対応）
- ・公立のDP（高校生向けプログラム）認定校は、全国6校（札幌市、東京都、神奈川県、山梨県、滋賀県、大阪府）
- ・認定要件は ①ICT等の環境整備及び申請費・年会費等の支払い ②学習指導要領と国際バカロレアの基準に沿ったカリキュラムの編成と実施 ③国際バカロレア教員の資格を持つ人材の確保 等
- ・授業は教科を問わず原則英語で行われ、教科間連携や実社会とのつながり等を重視した課題解決型の探究学習

【実績】 数学を英語で教えることができる教員4名の育成を開始

	令和元年度	令和2年度
対象	数学科教員2名	数学科教員2名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際バカロレア認定校視察Ⅰ <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄尚学高等学校 ・ 滋賀県立虎姫高等学校 ○ 国際バカロレア認定校視察Ⅱ <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京学芸大学附属国際中等教育学校 ・ 東京都立国際高等学校 ○ 国際バカロレアのテキストを活用した教材研究及び授業研究会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワールドワイドラーニング拠点校視察 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金沢大学附属高等学校（オンライン） ○ 国際バカロレア認定校視察 <ul style="list-style-type: none"> ・ 筑波大学附属坂戸高等学校（オンライン） ○ 国際バカロレアのテキストを活用した教材研究及び授業研究会の実施

※使用テキスト：

- Mathematics Analysis and Approaches / Higher Level & Standard Level
- Mathematics Applications and Interpretation / Higher Level & Standard Level

※令和3年度も継続で数学科教員2名の育成を開始

地域と連携した郷土学習

【概要】

児童生徒が郷土について学習する機会を確保するため、以下取組等を実施：

- (1) 小・中学校地域人材活用事業（義務教育課）
 - ・ 県内の小・中学校に、身近な地域で活動する人々を、美術や音楽、道徳や特別活動、総合的な学習の時間等の外部講師として派遣
 - ・ 様々な体験活動を通じて、郷土の文化や伝統に対する誇りや愛着心を養成
- (2) O I T Aふるさと学習交流会（義務教育課）
 - ・ 生徒が地域や社会に貢献しようとする態度の育成を目的とした学習交流会
- (3) I C Tを活用した小・中学生プレゼンテーションコンテスト（教育財務課）
 - ・ 児童生徒の情報活用能力及び教員の I C T活用指導力の向上を目的としたコンテスト
- (4) 国際交流プラットフォーム（13～14ページ参照）
 - ・ 外国人に対して、児童生徒が郷土や日本についてプレゼンテーションを行う機会

【実績1】 3年間で県内の小・中学校延べ9校に小・中学校地域人材活用事業の外部講師を派遣

活動例：地域の伝統音楽演奏家によるワークショップ、地域の書道家による作品作りワークショップ、大分県立美術館の教育普及スタッフによるワークショップ 等

【実績2】 令和2年度に県内の中学校11校がO I T Aふるさと学習交流会キックオフ会に参加

活動例：各地域の歴史・文化・産業・地理に関する発表・意見交換、各地域の防災・美化・魅力化に関する発表・意見交換 等

【実績3】 3年間で県内の小・中学校延べ26校がI C Tを活用した小・中学生プレゼンテーションコンテストに参加

テーマ：「私たちの学校・地域」「私たちがえがく地域の未来」等

【実績4】 3年間で延べ10の事業において外国人に対する郷土や日本をテーマとしたプレゼンテーションの機会を提供

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
交流事業	訪日教育旅行団等の受入	訪日教育旅行団等の受入	—
	海外高校とのWeb会議	海外高校とのWeb会議	—
	外国人トップリーグ-とのWeb会議	—	—
	海外修学旅行・研修等	海外修学旅行・研修等	—
	イングリッシュ・デイ・キャンプ	イングリッシュ・デイ・キャンプ	イングリッシュ・デイ・キャンプ

新大分スタンダード/県立高等学校授業改善実施要領

【概要】

- (1) 小・中学校においては、「新大分スタンダード」に基づく授業の徹底、高等学校においては、「県立高等学校授業改善実施要領」に基づく授業改善を推進
- (2) 全ての校種において、地域課題やSDGs等をテーマとした課題解決型学習を推進

※新大分スタンダード

- ・「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業づくり
- ・「1時間完結型」「板書の構造化」「習熟の程度に応じた指導」「生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開」による授業改善

※県立高等学校授業改善実施要領

- ・目指す授業像の実現に向けた「ワンステップアップのための授業モデル」と「3つのビジョン（方向性）、6つのアクション（方策）」を提示
- ・「授業改善スクールプラン」と「授業改善マイプラン」に基づき、PDCAサイクルを循環

【実績1】平成31年度全国学力・学習状況調査（平均正答率）

※数値は公立学校

	小学校（第6学年）		中学校（第3学年）		
	国語	数学	国語	数学	英語
大分県	67%	67%	74%	61%	55%
全国	63.8%	66.6%	72.8%	59.8%	56.0%

【実績2】令和2年度学習習慣等実態調査

※数値は県立高校（第2学年）

調査項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
授業の内容を理解できていると感じている生徒の割合	72.3%	74.3%	78.8%

【実績3】令和2年度までに県内5校（小学校1校、中学校2校、高等学校2校）がユネスコスクールに認定され、ESD教育を推進

【実績4】県立高校が「総合的な探究の時間」において、身近な地域や社会の課題解決に向けた探究活動等を実施

【実績5】県主催事業においてSDGsを活用した課題解決型のプログラムを導入

（例）グローバルリーダー育成塾、スタンフォード大学遠隔講座、オンライン・グローバル・キャンパス、オンライン・スピーキング・レッスン 等

大分県英語教育改善推進プラン

【概要】

平成28年3月に策定した「大分県英語教育改善推進プラン」に基づき、平成27年度から令和元年度にかけて、教員の英語指導力向上を目指した以下3種類の研修プログラムを実施：

- (1) 大分県英語担当教員指導力向上研修
 - ・ 県内の中学校及び高等学校教員を対象とした年5回の集合型悉皆研修
 - ・ 外部講師による講演や英語教育推進リーダーによる講義・演習等で構成
- (2) 大分県英語教育改善推進研修
 - ・ 県内の小学校、中学校、及び高等学校教員を対象とした年1回の集合型合同研修
 - ・ 外部講師による講演や各学校段階の学びを円滑に接続するための講義・演習等で構成
- (3) 大分県小学校英語教育推進研修
 - ・ 県内の小学校教員を対象とした年3回の集合型研修
 - ・ 英語教育推進リーダーによる講義・演習等で構成

※大分県英語教育改善推進プラン

取組方針

『英語を使って、自分を語り、ふるさとを語る、大分っ子の育成』
 ～発信力の育成を目指した授業改善を通して～

改善方法

- I 小・中・高等学校の各学校段階での学習到達目標を明確にする
- II 教員の英語力・指導力の向上を図る
- III 目標を達成するために、検証・改善のサイクルを確立する

【実績1】 求められる英語力を有する生徒の割合 ※国の目標：50%(高等学校・中学校)

高等学校 (CEFR A2)	英検準2級以上を取得している生徒及び 相当程度の英語力を有すると思われる生徒	<H26> 33.4%	<H27> 38.9%	<H28> 42.8%	<H29> 43.7%	<H30> 43.8%	<R1> 40.4%
中学校 (CEFR A1)	英検3級以上を取得している生徒及び 相当程度の英語力を有すると思われる生徒	<H26> 36.1%	<H27> 33.9%	<H28> 36.1%	<H29> 43.1%	<H30> 39.5%	<R1> 38.2%

【実績2】 英語担当教員の英語力 ※国の目標：75%(高等学校)、50%(中学校)

高等学校 (CEFR B2)	英検準1級相当以上を取得している教員	<H26> 55.5%	<H27> 60.1%	<H28> 66.1%	<H29> 69.8%	<H30> 77.4%	<R1> 66.7%
中学校 (CEFR B2)	英検準1級相当以上を取得している教員	<H26> 30.9%	<H27> 30.9%	<H28> 35.0%	<H29> 37.3%	<H30> 44.4%	<R1> 40.9%

オンライン・スピーキング・レッスン

【経 緯】 令和元年度 ～ 令和2年度（2年目）

【目 的】 生徒の英語発信力の強化

【主 催】 大分県教育委員会

【対 象】 県内の高校2年生（学校単位）

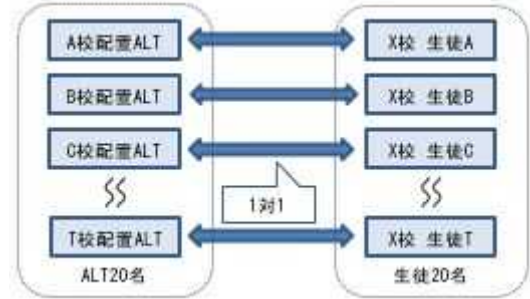
【日 程】 通年（各学校年1回）

【場 所】 実施校の教室等

【内 容】

- ・ 1人1台端末を活用して、ALT最大20名と生徒最大20名をオンラインで同時接続
- ・ 1対1の双方向型オンライン・スピーキング・レッスン（1人あたり15分程度）を実施
- ・ 各回の構成は ①SDGsをテーマとした事前課題に基づく個別学習 ②オンライン・スピーキング・レッスン（SDGsに関するQ&Aや、SDGsを達成するためにできることなどについてのやり取り） ③ALTから送付される個人別の評価シートに基づく振り返り
- ・ 各校は、県から送付される学校別の評価シートに基づき授業改善を実施

※評価の観点：Attitude, Listening, Pronunciation, Grammar & Vocabulary, Contents



【実績1】 2年間で1452名の生徒が受講

[人 数]

	令和元年度	令和2年度
受講者	1452名（22校）	ALTの一部欠員により未実施



【実績2】 令和2年度はALTが欠員している一部の学校において“他校のALT1名 × 児童生徒複数名”による電子黒板等を活用したオンライン国際交流を実施

Ⅲ 第2ステージの分析・検証

第2ステージの成果と課題を「大分県グローバル人材育成推進プラン」の2つの指標にもとづいて分析・検証し、第3ステージの基本方針と重点ポイントを定める。

(1) 第2ステージの分析・検証

【指標①】 グローバル人材として活躍するための素地を備えた生徒の割合

※県内の高校1～2年生を対象に毎年実施する「学習習慣実態調査」において、下記5つの項目中3つ以上の項目に対して、肯定的に回答した生徒の割合（指標は高校2年生のみを対象に集計）。

項目		肯定的回答の割合		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
1	<u>外国へ留学したり、国内外を問わず海外と関わる仕事に就いたりしてみたいと思うか。</u>	32.6%	32.9%	31.9%
2	自分と異なる意見や価値観をもった人とも協力して、目標に取り組むことができているか。	86.6%	87.4%	90.0%
3	外国人に対し、大分や日本のことを、日本語や英語（外国語）で伝えたり説明したりすることができるか。	48.6%	52.2%	52.0%
4	学んだ知識を活かして、自分で考え、判断して、分かりやすく伝えることができているか。	66.8%	69.3%	73.0%
5	<u>英語を使って、積極的に外国人とコミュニケーションを図ることができるか。</u>	24.7%	29.7%	27.2%
<u>グローバル人材として活躍するための素地を備えた生徒の割合</u>		50.6% <目標値 48%>	54.8% <目標値 50%>	54.9% <目標値 52%>

- 令和2年度の指標①は、平成30年度に比べて伸長、且つ目標値を達成しており、グローバル人材に必要な「5つの力の総合力」は着実に育成されていると言える。
- 「挑戦意欲と責任感・使命感」及び「英語力（語学力）」を測る指標として定めた項目1と5については、他項目と比べて肯定的回答の割合が低く、改善を要する。

【指標②】 高校在学中に外国人とコミュニケーションを図った経験がある生徒の割合

※県内の高校3年生を対象に毎年実施する「高校生の海外留学等に係る調査」において、「高校在学中に外国人とコミュニケーションを図った経験があるか」という質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合（令和元年度までの指標は、「一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験がある生徒」であり、令和2年度から上記指標に変更）。

※外国人とは、日本国籍を持たず、海外を基本的な生活の拠点に置く者とする。ただし、他校のALTや国内在住の留学生等は外国人に含む。

※コミュニケーションとは、双方向のやり取りであり、対面だけでなく、手紙・メール・Web会議など遠隔のやり取りも含む。

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
高校在学中に外国人とコミュニケーションを図った経験がある生徒の割合	22.0% <目標値 38%>	28.5% <目標値 40%>	57.0% <目標値 42%>



○ 令和2年度の指標②は、平成30年度に比べて伸長、且つ目標値を達成しており、国際交流の機会が着実に増加しつつあると言える。

(2) 第3ステージの基本方針及び重点ポイント

【基本方針】

A 第2ステージの継続と充実

→ 日本に居ながらにしてリアル、バーチャル問わず
世界とつながる機会の拡大

【重点ポイント】

B 挑戦意欲等を喚起する取組の拡大（挑戦意欲と責任感・使命感）

C 小中高を通じた英語4技能の強化（英語力《語学力》）

【重点】 挑戦意欲等を喚起する取組の拡大**◎グローバルリーダー育成塾**

- ・ 第2ステージの取組を継続
- ・ 第3ステージでは、1人1台端末を活用して、グローバルリーダー育成塾の当日以外の期間においても、参加者同士がオンライン上で共同作業できる環境を創出
- ・ 修了者について、卒業後の進路を追跡調査し、活躍中の人材を育成塾に招へい

◎スタンフォード大学遠隔講座

- ・ 第2ステージの取組を継続
- ・ 第3ステージでは、修了者の海外留学や海外大学への進学を更に促進するため、領事館など外部機関と連携した支援を実施

◎オンライン・グローバル・キャンパス

- ・ 第2ステージの取組を継続
- ・ 第3ステージでは、連携する外部機関を増やし、更に多くの生徒がバーチャル留学について体験できる機会を提供

◎留学フェア

- ・ 第2ステージの取組を継続
- ・ 第3ステージでは、海外留学生だけでなく海外大学進学者を増やすため、海外大学進学者との交流や海外大学進学に係る情報提供を拡充
- ・ 県費留学支援金に加えて文部科学省「トビタテ！留学JAPAN」の活用を促進

◎グローバル・ラーニング・ハイスクール（新規）

- ・ グローバルリーダー育成塾のノウハウを県内高校5校／年に提供
- ・ 以下プログラムで構成：
 - 1 国連機関、国内外教育機関、領事館等と連携した双方向型オンライン遠隔講座
 - 2 SDGs等をテーマとした留学生との協議 ※育成塾生がリーダーとして活躍
 - 3 第4回グローバルリーダー育成塾「高校生サミット」における成果発表

多様な価値観に触れることができる環境の創出

◎イングリッシュ・デイ・キャンプ

- ・ 第2ステージの取組を継続
- ・ 第3ステージでは、「小・中学生版グローバルリーダー育成塾」として位置付け
- ・ グローバルリーダー育成塾と類似したテーマを扱い、参加者が小中高通して成長を実感できるプログラムを提供

◎国際交流プラットフォーム

- ・ 第2ステージの取組を継続
- ・ 第3ステージでは、1人1台端末を活用したオンラインによる定期的な国際交流活動を促進

◎国際的教育プログラムの研究

- ・ 第2ステージの取組を継続
- ・ 第3ステージでは、国際バカロレアの教育手法を引き続き研究し、数学を英語で教えることができる教員6名を育成
- ・ 数学以外の教科においても、国際バカロレアの教育手法について研究を開始

伝統や文化に関する教育の充実

◎地域と連携した郷土学習

- ・ 第2ステージの取組を継続
- ・ 第3ステージでは、外部人材の活用と体験的な学習を通じた郷土学習機会を拡大
- ・ 郷土の伝統や文化等に関する学習成果を国内外の外国人に伝えるため、郷土の先人に関する教材や国際交流プラットフォーム等の活用を促進

主体的・対話的で深い学びを実現する授業の推進

◎新大分スタンダード/県立高等学校授業改善実施要領

- ・第2ステージの取組を継続
- ・第3ステージでは、令和2年度に策定した「2020からの新しい授業づくりハンドブック（小・中学校版、高等学校版）」に基づく授業改善を推進
- ・授業と家庭学習を効果的に連動させ、児童生徒が自ら学ぶ仕掛けをデザイン

5 英語力（語学力）

【重点】小中高を通じた英語4技能の強化

◎大分県英語教育改善推進プラン

- ・第2ステージの取組を「英語4技能テスト」に基づく内容に変更

◎オンライン・スピーキング・レッスン

- ・第2ステージの取組を継続
- ・第3ステージでは、レッスン実施校を普通科等設置校から更に拡大

◎英語4技能テスト（新規）

- ・小中高の新学習指導要領に基づいた指導方法及び評価方法を以下要領で構築：
 - 1 民間テストを活用した児童生徒の正確な英語4技能の測定
 - 2 民間テストで得られた結果に基づく授業改善PDCAサイクルの確立
 - 3 公開授業や研修の実施、動画配信等による成果の普及

※民間テスト実施校：

[小学校] 小学校英語教育推進校（県内18校 6年生対象）

[中学校] 中学校英語教育推進校（県内18校 2年生対象）

[高校] 全ての県立高校（県内39校 2年生対象）

V 第3ステージの目標指標

第3ステージについても、第1～第2ステージと同様に「大分県グローバル人材育成推進プラン」の2つの指標を活用し、各施策の進捗管理を行う。令和6年度までの目標指標は、以下のとおり定める。

【指標①】 グローバル人材として活躍するための素地を備えた生徒の割合

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
<u>グローバル人材として活躍するための素地を備えた生徒の割合</u>	54.0%	56.0%	58.0%	60.0%

【指標②】 高校在学中に外国人とコミュニケーションを図った経験がある生徒の割合

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
<u>高校在学中に外国人とコミュニケーションを図った経験がある生徒の割合</u>	44.0%	46.0%	48.0%	50.0%

大分県グローバル人材育成推進プラン 第3ステージ (令和3～6年度)

「5つの力の総合力」によるグローバル人材の育成

①挑戦意欲と
責任感・使命感

②多様性を受け入れ
協働する力

③大分県や日本への
深い理解

④知識・教養に基づき
論理的に考え伝える力

⑤英語力 (語学力)

※平成26年、グローバル社会を生きた大分の子どものために、世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働して未来を切り拓いていく上で必要な5つの資質・能力を定義し、「大分県グローバル人材育成推進プラン 第1ステージ(平成27～29年度)」を策定
※平成30年、第1ステージの成果・課題に基づき、「大分県グローバル人材育成推進プラン 第2ステージ(平成30～令和2年度)」を策定

第2ステージの取組

(1) 小中高一貫したグローバル人材育成推進モデルの構築

◎イングリッシュ・デイ・キャンプ

【概要】郷土の魅力をALTIに発信
【実績】小中学生243名が参加



◎グローバルリーダー育成塾

【概要】世界の課題解決策を議論
【実績】高校生712名が修了



◎オンライン・グローバル・キャンパス

【概要】バーチャル留学を体験
【実績】高校生22名が修了(R2)

◎スタンフォード大学遠隔講座

【概要】シリコンバレーの起業家等と交流
【実績】高校生60名が修了(R1-2)

(2) 県下へのグローバル人材育成推進モデルの普及

◎オンライン・スピーキング・レッスン

【概要】ALTと“1対1”で英会話
【実績】22校の高校生が受講(R1)

◎国際交流プラザフオーム

【概要】国内外の教育機関等と交流
【実績】25校の高校生が参加

◎国際的教育プログラムの研究

【概要】教材・授業研究等を実施
【実績】教員4名が参加(R1-2)

◎留学フェア・留学支援金

【実績1】留学フェアに中高生614名が参加
【実績2】留学支援金を高校生46名が活用

第2ステージの成果

「大分県長期教育計画」指標の伸長

- 国際的に活躍する資質能力を持つ生徒：48.1%(H29) → 54.9%(R2)
- 外国人とコミュニケーションを図った生徒：22.4%(H29) → 57.0%(R2)

第2ステージの課題

「5つの力の総合力」①⑤に係る指標の停滞

- 留学や海外との仕事に興味を持つ生徒：30.5%(H29) → 31.9%(R2)
- 英語で積極的コミュニケーションを図る生徒：24.9%(H29) → 27.2%(R2)

第3ステージの基本方針

A 第2ステージの継続と充実

- 世界的な“ヒト、モノ、カネ”の流れの停滞
- ICT環境の整備(児童生徒の1人1台端末等) → 日本に居ながらにしてリアル・バーチャル問わず世界とつながる機会の拡大

B 挑戦意欲等を喚起する取組の拡大

◎グローバル・ラーニング・ハイスクール(新)

【概要】育成塾モデルの年間プログラムを学校で体験
(1)講演(2)留学生と協議(3)育成塾で発表
【対象】高校5校 ※代表グループ

C 小中高を通じた英語4技能の強化

◎英語4技能テスト(新)

【概要】データに基づき授業改善PDCAを確立
(1)テスト(2)結果分析(3)研修(4)授業実践
【対象】小学校18校・中学校18校・高校39校

目標(令和6年度) ……

『国際的に活躍する資質能力を持つ生徒』：60%

『外国人とコミュニケーションを図った生徒』：50%

